

平成31年2月14日開会
平成31年第1回東松島市議会定例会

会派代表質問通告書

東松島市議会

会派代表質問 目次

平成31年第1回定例会

順位	会派名 代表氏名	件	名	頁
第1位	清風・公明 代表 五ノ井惣一郎	1	市政執行の所信に伺う	2 , 3
第2位	市民クラブ 代表 佐藤 富夫	1	予算執行に当たっての行政課題の一端を問う	4 , 5
第3位	清新会 代表 滝 健一	1	市政執行についての所信の具体策を問う	6

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>清風・公明</p> <p>代表</p> <p>五ノ井</p> <p>惣一郎</p>	<p>1. 市政執行の所信に伺う</p>	<p>東日本大震災から、8年を迎えようとしている。2年前、大震災の甚大な被害の復旧復興を目指し、市長は市民に7つのマニフェストの公約を約束した。現在は震災復興モデル市として、その手腕に市民は期待し、本年の市政執行にも注目している。そこで次の点について伺う。</p> <p>(1) 復興の加速と完結について 「心の復興」、「地方創生」、「人育み、人輝く、東松島」および「SDGs未来都市」を着実に実現するには市民等の理解が必要であるが実現の方向性を伺う。</p> <p>(2) 地方財政をめぐる動きと当初予算の編成について 国、県の補助・交付金、復興事業に係る震災復興特別交付税、各基金の財源を最大に活用し編成した、当該予算の効果的・効率的執行を図り、各事業が所定の成果を上げるよう努めるとあるが、財源確保についての所見を伺う。</p> <p>(3) 市政運営の基本方針について 「東松島市第2次総合計画」に基づき、5つの重点施策を積極的に取り組んできた。本年度の市政執行に当たり、5つのその施策を述べられているが、これらの実現には、その体制(市民を含めた)も必要であるが、考えを伺う。 市長公約のマニフェストを着実に推進するとあるが、任期前半の執行と後半の公約実行の考えを伺う。</p> <p>(4) 分野別施策について 「保(たもつ)」郷土の自然を保全し、資源を大切に するまち 「SDGs未来都市」に選定されたが、まだまだ市民には浸透していないと思われるが、今後の市民に対する進め方を伺う。 「備(そなえる)」「命」を守る備えに地域で取り組む、安全で安心なまち</p>

		<p>消防団員の確保は最重要課題だ。これまでその取り組みが議論されてきたが、改めて施策の考えを伺う。</p> <p>「健(すこやか)」健康意識が高く、誰もが、いつでも元気に暮らせるまち</p> <p>ア 今春オープンするパークゴルフ場は指定管理で運営するが、市においても市民の健康意識とコミュニティの場としても関与しなければならないと思うが、考えを伺う。</p> <p>イ 宮城オルレ奥松島コースは、まだ関心が低い市民がいると思われるが、今後の取り組みによって、市民等の参加と観光地としての名声につながるが、考えを伺う。</p> <p>「伸(のびる)」子どもたちが伸びやかに育つまち</p> <p>前年度から導入されたコミュニティスクールの充実により、地域と連携した学力と体力向上を図り、デジタル教科書導入などのICT教育推進に学力向上を図るとあるが、その考えを伺う。</p> <p>「修(おさめる)」生涯を通じて学び、修得し、実践できるまち</p> <p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックの前年度となるが、その機運醸成およびスポーツ振興の大きな契機として取り組むとあるが、考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>
--	--	---

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>市民クラブ</p> <p>代表</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>1. 予算執行に当たっての行政課題の一端を問う</p>	<p>(1) 被災市としての自立方針</p> <p>東日本大震災の復興・創生の2020年度の終了予定を踏まえ、復興庁は復興基本方針の見直しの骨子案を復興推進委員会に提示したのは1月21日のことである。しかし、廃止となる復興庁の後継組織は明らかにしなかった。従って、今後の具体的な在り方についても方針を示されておらず、被災自治体にとっては全くの自立は困難である状況にある。そのような中、宮城、岩手、福島の知事らは、国の責任で復興施策と被災自治体支援をする統括組織の継続を求めたと聞いている。</p> <p>以来、約1カ月国と3県の話し合いはどうなっているか。動向について。</p> <p>政府は、本年度中に基本方針を見直すため、被災自治体の意見を聴取し、3月に閣議決定するとも聞いているが、本市および県内被災自治体では、どのような集約をしたか。</p> <p>復興完結には、いまだ残された事業があり、今後とも、国の全面的支援は望めない中での財源問題がある。年々、行政需要経費が増えつつあり、平成31年度予算編成に当たっては、財源確保にかなりの腐心をしたと聞いている。この件について、12月定例会で提言を加えた財源問題がただされているが、近隣の自治体に赤字財政再建団体寸前の事案があることを踏まえれば対岸の火事では済まされない。この件についての市長の所見と、刻々と財政状況が変わりつつある中での方策を示されたい。</p> <p>(2) 被災元地買取の利活用について</p> <p>昨年6月定例会で表題について、これまた提言と同時に質問されている。</p> <p>特に、旧野蒜地区はいまだ雑草樹木がはびこる中、</p>

住宅地が点在、住環境としては快適とは言い難く、この地区の住民には、高台住宅地との格差感も生じていると聞いている。運動公園等、既存のプラン以外の買取元地のその後の経過を問う。

(3) SDGs 未来都市構想について

1月25日、華々しく東北SDGs 未来都市サミットが開催された。それなりのPR効果があったと思うが、それぞれの市町の発表の中身は既存の政策を披歴したに過ぎない感は否めない。行政、社会組織、市民、企業等一体でなければ成功しないという共通認識に立てば、今後の積み上げが重要。

前述の各組織、市民の一体化をどのようにするのか。

当局の組織体制強化と議会との緊密化をどう考えるか。

今後の活動方針について

(4) 新元号を控えてのシステム改修の加速化について

政府は新元号の公表を控え、地方自治体や民間に万全を呼びかけていると聞いている。本市および関係する機関のシステム改修の経過と経費についてを問う。

【答弁を求める者 市長】

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>清新会</p> <p>代表</p> <p>滝健一</p>	<p>1. 市政執行についての所信の具体策を問う</p>	<p>(1) 東日本大震災からまもなく8年が経過する。この時点における被災者の心の傷跡の回復や癒やしはどのように推移してきたと思われるか。その総括的所見について。また、まだまだ残る心の復興のための施策の必要性がある。被災者に寄り添って進めるとしているが、その方策について。</p> <p>(2) 総合計画で目指す将来像「人育み、人輝く東松島」ならびに「SDGs未来都市」の目標である「住み続けられるまちづくり」を実現するための施策の中で「全世代にわたる福祉の充実」を述べられた。その内容の詳細について。</p> <p>(3) 本市の基幹産業たる農業、漁業の経営を守り、発展させるための施策は極めて重要である。その中で6次産業化とブランド化について、どのように支援体制をとるのか、その手法について。</p> <p>(4) 市役所職員の人材育成について述べられた。市民からの信頼性向上も大切なのはもっともなことであるが、市長が全ての職員に信頼されることも重要である。このために常々、市長はどのように思慮しているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

